令和元年　８月　２日

防　除　情　報

長崎県病害虫防除所長

令和元年度病害虫発生予察　防除情報第９号

いちご　ハダニ類（育苗床）の防除対策について

現在のハダニ類の発生については、寄生株率は７月前期までは平年より高く７月後期では平年並となりましたが発生圃場率は平年に比べ高く推移しています。苗から本圃へ持ち込み、多発すると防除が困難となりますので、下記の点を留意して防除指導をお願いします。

記

１．発生状況等

（１）本虫については、７月後期の育苗床での巡回調査（３０筆）の結果、寄生株率は４．４％（平年５．５％）、発生圃場率は４８．１％（平年３９．６％）と平年並であった(図１、２)。

（２）気象予報（福岡管区気象台、令和元年８月１日発表）によると、向こう１か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

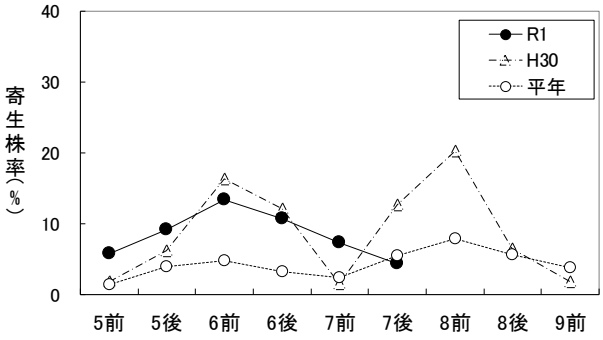

図1　ハダニ類　寄生株率の推移(育苗圃)

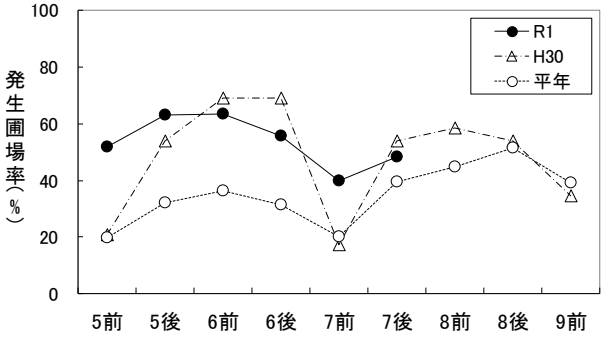

図2　ハダニ類　発生圃場率の推移(育苗圃)

２．防除対策

（１）本圃で多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないよう定植前までに防除を徹底する。株冷・夜冷処理を行う場合は、入庫前に薬剤防除を徹底する。

防除例　①ゆめのか（株冷・夜冷）の場合

株冷・夜冷入庫１週間前：アバメクチン乳剤（散布）

株冷・夜冷入庫前日：スピロテトラマト水和剤（灌注）

②ゆめのか（普通ポット）又は、恋みのりの場合

定植１週間：アバメクチン乳剤（散布）

定植前日：スピロテトラマト水和剤（灌注）

※アバメクチン乳剤、スピロテトラマト水和剤は感受性低下を防ぐため、年１回以内の使用に努める。

（２）下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

（３）古葉の摘葉後に防除すると効果的である。摘葉した葉を圃場内に放置すると周辺株へハダニ類が移動するため、速やかに圃場外に持ち出し密閉処分する。

（４）薬剤感受性が低下しやすいので、異なる系統の薬剤（平成 31 年長崎県病害虫防除基準 P220～223 の「作用機構による分類（IRAC）」参照）をローテーション散布する。

薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を積極的に活用する。ただし、卵に対する効果が低いので５～７日おきに連続散布を行なう。

（５）天敵による防除を予定している場合は、薬剤によっては天敵に長期間影響を与えるものがあるので、薬剤の選択と使用時期に注意する。

○６月１日から８月３１日までの３か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」　アドレス：http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所　ＴＥＬ：0957-26-0027